

平成23年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名	有機太陽電池研究会 (支援期間：平成23年度)			
大学名	所属	氏名		
富山大学	大学院理工学研究部 大学院理工学研究部 工学部 自然科学研究支援センター	○岡田 裕之 中 茂樹 堀野 良和 小野 恭史		
金沢大学	理工研究域 物質化学系 理工研究域 物質化学系 理工研究域 物質化学系 理工研究域 物質化学系 理工研究域 物質化学系	○高橋 光信 加納 重義 前田 勝浩 桑原 貴之 井改 知幸		
※ 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印。				
その他の機関 の構成員	機 関 名	所 属	職 名	氏 名
成果概要	<p>本支援は、金沢大学・富山大学を中心とした「有機太陽電池研究会」を通じて、研究者間で連携して研究基盤ネットワークを構築することにより、北陸における有機太陽電池の研究拠点を形成することを目的としている。そこで申請書には、申請期間において、① 金沢大・富山大合同での有機太陽電池の研究成果報告会の開催、② 外部講師を交えたシンポジウム開催による最新情報収集と目標の再確認、を計画した。</p> <p>このような計画の下、平成23年12月17日に「平成23年度金沢大学-富山大学共同企画 有機系太陽電池シンポジウム」を金沢大学で開催した。まず、最新情報収集と目標の再確認を目的に、産総研・増田淳先生による題目「太陽光発電産業・技術の最新動向と将来展望」と、経済産業省・原浩二郎先生による題目「色素増感太陽電池の最新動向」の外部講師による2件の講演を頂いた。次に、金沢大学・高橋と富山大学・岡田が、それぞれの大学における有機薄膜太陽電池の取組の紹介を行った。さらに研究交流を広める目的で、ポスター発表による研究発表会を開催した。今回は、金沢大が15件、富山大が3件、慶応大が1件、神戸大が2件、産総研が1件の合計22件の発表となった。その内容は大まかに、素子構造開発に関するもの7件、有機高分子材料合成に関するもの8件、有機発電層薄膜のエンジニアリングに関するもの6件、有機薄膜モルフォロジー計測に関するもの1件であった。ローカルな研究発表会とは云え、有機薄膜太陽電池関係者約50名（民間企業の関係者10数名を含む）が集い、大変な活況を呈した。</p> <p>このような情報交換や連携は、北陸地区からの世界的エネルギー問題克服技術の発信の礎となるものである。このような活動によって、民間企業の新産業創出意欲の促進や、大型予算獲得に向けた異分野連携研究グループの構築などを今後さらに行っていく予定である。また、富山大学の有機太陽電池に係る関連研究として、学術論文6篇、関連依頼講演3件、国際会議発表4件、大会発表6件で広く公開に努めた。</p> <p>なお、平成24年3月25日から開催される日本化学会において、有機系素子を用いる光電変換技術にかかる学術情報の収集も行った（担当：堀野）。</p>			
獲得した外部 資金	平成24年度(2012年度)基盤研究(B) (一般)採択 研究課題：高分子材料創製を基軸とする高性能な逆型有機薄膜太陽電池構築のための基盤技術の確立(平成24年度～平成26年度) 研究代表者：高橋光信 研究分担者：前田勝浩、桑原貴之 連携研究者：井改知幸			